

「なぜ、今『出生前診断』なのか」

いま新型の出生前診断法が大きな論議を呼んでいます。

2012年8月、メディアにより「血液検査という簡易な方法で胎児診断ができる」という報道が一斉になされて以来、この「新型診断法」によって、いのちに関する基本的な問題から人々の目をそらす操作がなされようとしています。そして2013年4月、「臨床研究」という名目で開始されました。

このことについて、私ども日本臨床心理学会では、すでに1970年前後の兵庫県による「不幸な子の生まれない運動」という同様な問題について議論をしてきた経過があります。

そこで、今回のこの「新型出生前診断」をどう捉えていくのかを、11月15日に当学会が開催する「第50回大会のシンポジウム」で論議することになりました。

シンポジストとして、

半世紀にわたり産婦人科医師として人間の尊厳を大切にす診療と社会活動をされてきた堀口貞夫さん

ダウン症児の親として当事者の命を守り人権を擁護するため活動中の石黒敬子さん

妊婦の立場から出生前診断や遺伝カウンセリングに対する考えを発信された二階堂祐子さん

の皆様にお越し頂き、多様な立場からご発言頂き、論議を深めたいと考えています。

皆様には、是非ともご参加下さいますようお願いしています。

皆様には、是非ともご参加下さいますようお願いしています。

皆様には、是非ともご参加下さいますようお願いしています。



* 月日時： 2014年11月15日(土) 13:30 ~ 17:00

* 場 所： 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟309号室
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

* 交 通： 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分

* 参加費： 会員/2,000円、非会員/3,000円、障害当事者・家族・学生等/1,000円

【シンポジスト】

堀口 貞夫 さん：産婦人科医師（一般財団法人主婦会館 主婦会館クリニック所長）

石黒 敬子 さん：日本ダウン症協会広島支部「えんぜるふいっしゅ」役員

二階堂祐子 さん：明治学院大学大学院社会学研究科

「ハイリスク」な女の声をとどける会（休会中）発起人

【司 会】

高島 眞澄：社会福祉法人光風会 / 山本 勝美：心理相談員協議会



【主 催】 日本臨床心理学会

【連絡先】 日本臨床心理学会事務局 大学生協学会支援センター

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター

Tel：03-5307-1175 fax：03-5307-1196 E-Mail：nichirinshin@univcoop.or.jp

* 視覚障害、聴覚障害のある方の情報保障につきましては、学会事務局にご連絡下さい。